

高等学校 第1学年公民科（現代社会）での実践事例

単元名「現代政治の特質と課題」

〇〇〇〇高等学校 教諭 〇〇 〇〇

—アクティブ・ラーニングの視点からの工夫

- 改善策を考えるために、必要なデータを事前にまとめさせておくことで、本時の課題とその解決の見通しを持たせる。
- 生徒一人一人が改善策を考えられる時間を確保すると共に、グループで多様な意見を出し合いながら、改善策のアイデアを構造化するなど協働して課題の解決に取り組ませる。
- グループでまとめた考えを全体に発表し、質疑応答を行うことで検証させる。

1 学習指導過程（本時4／4）

○本時の目標

- ・我が国の選挙制度の仕組みを理解した上で、若者の政治的無関心や低い投票率の現状に触れながら、政治参加の重要性と民主社会における自らの生き方について考えを深めさせる。

学習活動	指導上、留意した点
1 前時の内容（全般的な投票率と年代別投票率の推移）の資料などから、本時の課題を確認する。	主 ・年代別棄権理由の資料から若者が投票に行かない理由の特徴を読み取り、まとめることで、本時の目標を意識させる。
どのようにすれば若い世代の投票率低下を改善できるのか。	
2 若い世代の投票率低下を改善する方法を考察、協議する。 (1)自分の考えを付箋紙に書き出す。 (2)各自が書き出したことを基にグループで協議する。 (3)グループの意見を全体に発表する。 (4)発表するグループ以外から質問をする。	主 ・自由にアイデアを出し合うことができるようにブレインストーミングの手法を用いる。 対 ・多様な意見を表出し合い、整理できるように模造紙を使って分類させる。 深 ・自他の考えを比較・吟味・関連付けし、新しい意見を出していくことを推奨する。 対 ・他のグループの発表への質問を通して、改善策の一層の構造化を促す。
3 本時のまとめをする。	主 ・若者の投票率の低下を改善するために、その原因、改善方法、改善のために必要な知識や行動についてワークシートにまとめる。
<p>〔期待する生徒のまとめのことば〕 政党や政治家は、国民が直面する政治的問題を見出し、新たな対立軸を示すことで政治への関心を高めるようにすると共に、少子高齢化が進む中、投票率の低下によって生じる弊害を未然に防ぐためにも、若い世代の有権者としての自覚を育むことが大切である。</p>	

2 実践後の成果と課題（授業での生徒の反応や変容から）

- 学習課題について「個人→グループ→全体→個人」というサイクルを通して学び合うことに慣れてきている。特にグループワークにおいては、自身の取り組むべき課題やグループ内で果たすべき役割を自覚できる生徒が増えている。
- グループでの協働的な活動では、既習知識（本時は、政党政治と選挙制度、民主政治における政党や利益集団の意義と役割、世論の意義など）を踏まえ、多様な意見を構造化して考察しようとする様子が見られるようになった。

3 本実践での課題

- まとめの**ことば**を、自己評価（主体的な活動）するとともに、相互評価（協働的な活動）をすることで、能動的に学習する力や汎用的能力が付いたかどうかを検証する機会を取り入れる工夫をしていきたい。